

ランチョンセミナー ④

テーマ

ロケーターシステムを中心とした インプラントオーバーデンチャーの勘所

インプラント治療は元来、無歯顎者に対してのボーンアンカーブリッジ(固定性)として臨床応用されてきた。しかし、審美性、発音、清掃性、コストなどの問題から固定性ブリッジよりも可徹性のオーバーデンチャー(IOD)が有用である場合も多い。

筆者は無歯顎のIODについては、従来は上下顎ともに2~4本のバーアタッチメントによるオーバーデンチャーを第一選択としていた。但し、バーアタッチメントは煩雑な技工操作、コストなどの面からやや難点があったのも事実である。一方、最近日本でも活用されているロケーターは確実な維持、適度な支持・把持効果を有しており、ITIトリートメントガイドVol.4(2011年)ならびにITIコンセンサス会議(2013年)においても無歯顎におけるIODの維持(支持)装置として推奨されている。

今回、症例を中心にロケーターの臨床活用のポイントについて解説する。

講師

上浦 庸司 先生

- ITI フェロー
- Center of Implant Dentistry(CID)
- 熊澤歯科クリニック
- 北海道大学 臨床准教授



日時

2013年11月3日(日)

11:45~12:45

会場

12Fスカイバンケット(ベストウェスタンホテルニューシティ弘前)